

# RENMEIみやぎ



石田まさひろ参議院議員と東北公済病院の皆様

## 目次

会長あいさつ・ごあいさつ	2~4P
平成30年度 北海道東北ブロック看護管理者看護教育者等政策セミナーに参加して	5P
会員研修(3)	6~7P
平成30年度 ポリナビワークショップ in 仙台	8~13P
都道府県別会議	14P
リーダーセミナー	15P
けやき支部研修会	16~17P
石田昌宏参議院議員と施設訪問	18P
研修(4)	19P
会員募集	20P



## 会長挨拶



宮城県看護連盟会長 **中村 恵美子**

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

天皇陛下の生前退位による皇太子さまの新天皇即位により、平成は31年の途中から変わります。西暦だけに変えたほうが良いのではないかとの意見も聞かれる中、国民はやはり時代をあらわす和暦も残してほしいという意見も多く聞かれているようです。

今年の宮城は選挙の年です。県議会議員選挙・市議会議員選挙そして国政では参議院議員選挙があります。

私達宮城県看護連盟は自民党宮城県支部に入っております。県議会・市議会では自民党が推している方を選ぶこととなります。

けれども、国政において私達看護職員は、自分たちの仲間である石田まさひろさんを応援しています。連盟の使命であるベッドサイドからの意見・要望を国政に反映してほしいからです。

私達一国民は選挙権を持った日から、国民の義務として投票所に足を運ばなければなりません。仕事が休めない、あるいは出張があるという人のために期日前投票があります。出張の準備で買い物に行くとき等是非、期日前投票をしてください。投票もせず、国政や県・市に対して不満・不平を言っても仕方ありません。まず、自分の義務を果たすようにしましょう。

今年1年が皆様にとって実り多い年になりますよう願っています。





## 穏やかな中に、力強さを秘めた看護連盟

日本看護連盟会長 草間 朋子

春の訪れを感じる季節となりました。

4月には統一地方選、7月には第25回参議院選を控えた重要な年を迎えました。

昨年は、あべ俊子先生が外務副大臣、たかがい恵美子先生が厚生労働副大臣、石田まさひろ先生が厚生労働委員会委員長に就任され、看護連盟にとっては最高にうれしい年となりました。各先生方の実力はもとより、皆様の日ごろの活動の成果により日本看護連盟および各都道府県の看護連盟の行動力、力強さを社会に示すことができましたことに心から感謝申し上げます。

今年も、看護・看護連盟の底力を発揮し、看護職を代表する国会議員の先生方を確実に国政の場に送り、しっかり活動していただき、専門職として最良の看護を提供できる環境を整えていく政策を実現していきましょう。選挙権は国民に与えられた権利です。「選挙に行こう」を合言葉に、目標達成に向けて活動してまいりましょう。



## 「RENMEIみやぎ第77号」によせて

石田まさひろを応援する会会長 日本訪問看護財団理事長

清水 嘉与子

新しい年号の下で、7月初めての参議院選挙が行われます。看護界としては是非しっかりとした成績を挙げたいものです。今看護系の国会議員が大きな責任を与えられて活躍しています。阿部俊子外務副大臣、高階恵美子厚生労働副大臣という2人の副大臣に加えて参議院では石田昌宏議員が1期目にして厚生労働委員会委員長に任命されました。安倍内閣での大きな仕事の一つに働き方改革があります。医師も看護師も患者さんが苦しんでいる限り寄り添うのが当然という雰囲気の中で仕事をしてきました。しかし働く人の健康保持が必要なことも当然のことです。高階副大臣は働き方改革の担当、石田委員長の下、大いに国会で議論していただき、働きやすい環境を整えていただきましょう。

東日本大震災の後、日本訪問看護財団が名取市で行ってきた看護支援活動も3月で終わります。一日も早く被災を受けた皆様が平穏な生活を送れるようになることを心から願っております。



## ごあいさつ

参議院議員 石田 昌宏

宮城県看護連盟の皆様、平素よりの温かいご支援に感謝申し上げます。

皆様の周りで、梅のつぼみはほころび始めていますか？

御代替わりも間近に迫り、2月の日差しに新しい時代を予感しています。

先の国会より参議院厚生労働委員会委員長を拝命いたしました。保助看法を含む厚生労働法制の真ん中で仕事をしています。国民にとっては議論が深まり法案がより良いものになるよう丁寧な審議を心がけています。

国会議員として初登院依頼、議会のない時は土日も含めて看護の現場を訪問し、皆様の声を国政に反映させる努力をしてきました。特に今は書類・記録の削減に取り組んでいます。皆様からいただく生の声が私の原動力です。今年もどんどんお聞かせください。

皆様が元気になる政策を、皆様と一緒に推進していきます。皆様と力を合わせ、日本を元気にしていきます。



## ごあいさつ

厚生労働副大臣 参議院議員 **高階 恵美子**

宮城県看護連盟の皆様には平素より大変お世話になりまして、感謝申し上げます。

寒さの中にも春の足音が聞こえてくる季節となりました。皆様におかれましては、健やかに過ごしのことと存じます。

さて昨秋の内閣改造において、厚生労働副大臣を拝命しました。就任に際しては多方面から、心温まる激励を賜り身に余る光栄に存じます。平素にも増して、細部に心を尽くし職責を果たす所存です。

本年は皇室典範特例法により今上天皇が退位され、新たな御代に移ることとなります。また、2040年を照準とする社会保障制度構築のため、さらなる改革に着手する年でもあります。

いのちの最前線に立つ看護職にとって、まさしく働き方改革元年とも呼ぶべき重要な転換点となることが予測されます。一人一人の個性が活かされ、社会保障の実現者として生涯に渡る社会貢献ができるよう、これからも、しっかり現実を踏まえた対策を実現して参ります。

みなさまの真心に改めて感謝を申し上げますとともに、新年が健やかな笑顔に包まれるよき年となりますことを、心よりご祈念申し上げます。



## ごあいさつ

外務副大臣 衆議院議員 **あべ 俊子**

皆様お健やかに新春をお迎えのことと存じます。

宮城県看護連盟の皆様には日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は内閣改造に伴う人事で、外務副大臣を拝命いたしました。安定した外交による国の安全は社会保障の基礎と考え、本年も引き続き、頂いた公務に邁進する所存でございます。

新年を迎え、我が国が抱える2025年問題への思いが一層強くなるのを感じております。看護の対象は子どもから高齢者、病院から地域と、さらに拡大し、求められるケアも多様化しております。社会の大きな変化から国民の健康を守るためには、看護師皆様のお力が本当に必要です。やりがいのある看護を、いつまでも続けることができる制度づくりに、全力で取り組んで参ります。引き続き忌憚ないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健勝と貴連盟のますますのご発展を心より祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



## ごあいさつ

衆議院議員 **木村 弥生**

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は厚生労働委員会で3回質問しました。

5月2日は働き方改革関連法、看護職の労働環境改善を。6月8日は児童虐待、地域包括ケアシステム、誰もがより健康で働ける社会について。12月5日は、看護職のハラスメント対策、看護記録や訪問看護のレセプト作業の煩雑さを訴え、また、妊婦加算の見直し、性犯罪から児童を守るための制度づくり、依存症回復・治療施設や救護施設の在り方等質問しました。

いよいよ4月より働き方改革関連法が施行されます。看護師確保等基本指針の改定や、勤務間インターバルの適正な確保・深夜業の回数の上限の設定を引き続き求めてまいります。

これからも看護職議員として、看護と政治をつなぐ役割を果たし、現場の声を政策に反映してまいります。何よりも、光の当たaraぬところにあたたかな光を当てていく政治を忘れずに、女性の視点、母親の視点、看護職の視点を生かし「誰もがより健康で活躍できる社会」の実現に向け、皆さまのご期待と信頼に応えてまいります。

引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 平成30年度 北海道東北ブロック 看護管理者看護教育者等政策セミナーに参加して

東北公済病院 高橋 ひとみ

平成30年9月22日～23日の2日間にわたり岩手県盛岡市の盛岡ホテルメトロポリタンにおいて、約60名の参加のもとにセミナーが開催されました。宮城県からも次年度が担当県のため10数名で参加しました。講演が6、国政報告が2、そしてグループワークがあり非常に中身の濃い二日間でした。一日目は「看護協会の政策」と題して、日本看護協会専務理事である勝又浜子氏より講演がありました。人口のピークは2010年でありその後減少しており、地域により高齢化・医療需要ピークの時期が異なる現状、そして認知症は増え続けるという予測があり、それを見据えて医療体制を整える必要の説明がありました。看護協会として、1. 看護基礎教育制度改革の推進、2. 地域包括ケアにおける看護提供体制の構築、3. 看護職の働き方改革の構築、4. 看護職の役割拡大の推進と人材育成について取り組んでいる現状の説明がありました。日本看護協会は、「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を実現するために、看護政策を提案し、その実現にむけて、中長期的戦略の下に活動するという内容を直に聞くことができました。その中で、新人看護職の離職の理由が、「適正能力の不安」であることから、基礎教育の4年生実現についての取り組みが印象的でした。

国政報告1. では参議院議員石田まさひろ氏から、「内発的な看護」について語られ、患者ではなく看護管理者として組織を守る側にまわっていないかという問いかけがあり、看護の原点を考えながら話をきいていました。そして、人口減少を現実的にとらえ、「いつか人が増えればいい看護ができる」という妄想を捨ててくださいという非常にインパクトのある言葉ももらい、他職種に委譲するといっても、他職種だっていない……という点を見極めて管理していく必要があると考えさせられました。そして「人が増えなくともいい看護ができるように考えていこう」というメッセージを受け止めました。記録・事務作業の合理化・簡素化に向けた取り組みなどに関わり診療報酬改定につなげていっていることから、今後のさらなる石田議員の活躍に目がはなせないと感じました。

他に「医療政策の動向と課題—人口構造の変容の課題とインパクト」、 「地域医療120年の歩みから—未来につなぐ医療人の育成」、オリンピック大臣鈴木俊一氏の国政報告、「今から人生の最終段階までの意思決定支援」の講義がありました。グループワークは「ブロックの課題を政策提言につなげる」という内容で、活発に意見交換がなされました。夜の懇親会は岩手の鬼剣舞を観ながら、和気あいあいと同じ看護連盟の仲間・各県看護協会の役員の方と交流を楽しく深めることができました。捻り多い研修に参加させていただきありがとうございました。



平成30年9月30日(日)  
仙台ガーデンパレス

# 会員研



## 平成30年度宮城県看護連盟会員研修(3)に参加して



大泉記念病院 森 竜子

6月30日に行われた特別講演「世界の看護最前線」に引き続き、2度目の只浦先生の講演を拝聴した。先生は、世界の看護の現状を知るために諸外国を回っておられる。その中での学びについての講演内容であった。先生はある時、ケージに入れられたウサギを見て「何とか自由にしてあげたい」と感じられた。その感情がベッドで安静を強いられている患者も同じなのではと感じられ、何とか自由にしてあげたいと考えられた。それが、患者の能力や残存機能を十二分に発揮し体動を可能にする「キネステティック」の研究につながる。小さな出来事をきっかけに「自分でできることは何か？」を考えていく。そして声を上げ、行動に移していく。組織の中で働く私は、日頃、「良い看護がしたい、患者中心の看護がしたい」と考えていても、難しいとあきらめてしまう傾向にある。自分の夢を叶えるためには、先生が話されていたように声を上げることが重要だと感じた。

# 修 (3)

テーマ：「夢を叶える勇気を」

講師：只浦 寛子先生

(国際医療福祉大学大学院教授)

## 平成30年度宮城県看護連盟会員研修(3)に参加して



みやぎ北部循環器科 齋藤 澄子

只浦先生のご講義は6月に続いて拝聴させていただきました。印象的だったのは“身動きのとれないゲージの中に閉じ込められたうさぎ”の話です。ここに先生の看護の原点があるというのが伝わり興味がわきました。

これまで何の疑問も持たなかった従来の体位変換が、まるでうさぎをそのゲージごと動かしているようなものということにハッとさせられました。そしてキネスティックという概念によって、生命エネルギーが増大しQOLを向上させるということに看護の無限さを感じました。

また先生が世界の様々な人々との出会いや最前線の看護を通して学ばれたことをトピクスとしてお伝え頂くと共に、世界の看護は二極化しており、戦後から変わらない意識構造である日本もこれからは変わるべきということを学ばせて頂きました。

### 平成30年度 宮城県看護連盟会員研修会



# 宮城県看護連盟 青年部活動報告 平成30年度ポリナビワークショップ in 仙台

## 平成30年度 ポリナビワークショップ in 仙台を企画・運営して

青年部委員長 総合南東北病院 藤井 純

ポリナビワークショップの企画・運営は、青年部の大きな活動であり、1年に1度開催できるように活動しています。今回で私が参加するのは4回目ですが、私が委員長に就任し初となるポリナビ、正直「一体何をしよう？」と企画段階でかなり悩みました。今年も石田まさひろ議員をお招きして行うことが先に決定していたわけですが、内容について青年部委員と定例会で話し合いました。ポリナビは若手看護師参加の場であるのだから、青年部委員も若手なので、そこにやりたい内容があるはずだと思いましたが、そこで、みんなで意見交換をしました。「普段の仕事はどうか?」、「何か不便に思うことがないか?」、「悩み事はないか?」など、一人ずつ話し定例会の場で思いをそれぞれ吐き出してもらいました。同じ施設同士の会話ではなく、多施設からの集まりであるからか、意見が飛び出す状況に。内容から若手看護師は悩みが多いとわかり、悩みが多いがゆえに、仕事を続けられない、やりがいがない、人間関係といったものがあると考えました。まさにこれだ、この若手の意見を実際に石田議員に聞いてもらうのはどうか?というのが今回の企画の理由となりました。



当日は参加者と青年部委員、連盟役員合わせて55名の参加のもとで開催されました。テーマはインパクトがある内容にする目的もあり、「Nurseのおもい伝えよう! ~ 私達の悩みや思いを聞いてください、石田先生! ~」としました。私が看護師の悩みについて、調べたものを提示。やはり1位は「人間関係」で悩む人が多いという結果でした。実際に私も人間関係で悩んだ一人であり、現在進行形でもあります。これは働く以上、ずっとつきまとう問題なのではないかと思いますが、そこに石田議員のご意見、「みんな同じであるから人間関係って難しくなる。価値観を変えないといけない。」その通りだと思いました。人はそれぞれ違ったものを持ち合わせ、違った力を発揮します。看護においてもそれは言えます。だから各分野の専門・認定看護師が存在しているわけですから、それについて大変共感できました。また、人手不足については、職員の出勤時間をずらすことや、ケアの時間を夕方にしたなど、工夫した施設の事例を提示され、結果を聞いて驚きました。残業時間の減少と、不眠の方が減り夜間の業務量解消に繋がったそうです。やり方を考えることで解消できる問題や悩みもあり、患者に与える影響も大きくなるということ学びました。今回参加された方々に大きな刺激が加わったのではないかと思いますし、石田議員をさらに知ってもらうきっかけとなったのではないかと思います。

青年部活動について、今後もポリナビ企画・運営はもちろん、他県と連携しての活動を強化し、楽しい明るい宮城のパワーを全国へ届ける活動を行っていきたくと思います。来年はどんな内容で行うかは定例会でまた考えていきたくと思います。

看護師がどんな悩みがあるか  
改めて調べてみました。

第1位  
人間関係

第2位  
上司や経営者との  
看護観の違い

第3位  
給与が低い

第4位  
勤務時間が長い

第5位  
やりがいがない

看護師代表である石田議員に  
私達の声を直接届けよう。

同じ世代が参加しています。  
それぞれの施設の情報共有や親睦を  
深めていただく目的も  
今回の企画としています。

この場でたくさんの意見交換  
を行い活発に話し合おう!  
遠慮してはいけませんよ!





**日時：平成30年11月3日(土) 会場：仙台ガーデンパレス**  
**テーマ：「Nurseのおもい伝えよう！～私達の悩みや思いを聞いてください、石田先生!～」**  
**講師：石田まさひろ 参議院議員**

グループワークで話し合った内容についてまとめてみました。

## ～ 日々感じている思い ～

### ①人間関係について

- ・ 医師との連携がうまく取れない。理不尽なことで怒られた。
- ・ 患者、家族との関係性がうまくもてない。
- ・ 先輩と後輩の関係性がうまくいかない。  
意見を言い出せない。 など

### ②勤務状況について

- ・ 人手が足りない。
- ・ 仕事量が多く勤務時間内に終わらない。残業時間が多い。
- ・ 有給がうまくとれない。(申請できない)



## ～自分でどう対応していますか?～

- 師長・主任と話し合っただけでなるべく働きやすいよう、勤務をする。
- 先輩・後輩に気を遣ったり、聞きづらいという点は話しやすい先輩に相談する。それも難しいときは師長に聞いてもらう。
- 意見の違いというところでは、いい所は吸収していく。あやふやな所は上の先輩に相談して確実な方法を確認する。
- 休日に趣味をすることでリフレッシュしている。
- プライベートの時間で寝る日を作ったり、自分の中で生活リズムを調整する。
- 別な職場や、他職種の方と話をし情報共有をしている。



## ～ 施設での対策は? ～

- 定時で帰れるように各々自分の仕事をしながらも、他の人のカバーをしながら進めている。
- 1年目がみんな同じ時期にリフレッシュをとれるように設定している施設がある。
- 3年目がプリセプターをするときは、3年目は主にメンタル面のケア、技術面は先輩がカバーするように工夫している。



# 宮城県看護連盟 青年部活動報告

## 平成30年度ポリナビワークショップ in 仙台

青年部副委員長 広南病院 芳賀 悠右

私は、看護連盟青年部1年目です。今回初めて開催・運営する側として参加させていただきました。司会進行という立場で緊張しましたが、とても貴重な経験となりました。若い看護師に看護連盟の活動をどのように知ってもらえるか、他県のポリナビにも参加し、青年部で話し合いました。自分の職場以外の看護師の方と話す機会はありませんので、それだけでも自分の中で刺激となり、楽しく活動することができました。



青年部副委員長 石巻赤十字病院 西條 裕彬

ポリナビの運営に携わるのは私自身2回目であった。昨年の反省点を踏まえ、会場の設営方法やポリナビの進行をマニュアル化したことで、それらは難色を示す事なく実施することができた。今回のグループワークは「若手看護師の悩み」がテーマであり、参加者のほとんどが1~3年目の看護師であった。人間関係や仕事が上手くできないことに対する不安等、若手看護師ならではの意見が多く聞かれた。しかしながら、グループワーク中の雰囲気はどこか「盛り上がり」に欠ける印象があった。雰囲気作りは難しい課題ではあるが、参加者が純粋にポリナビを楽しめるよう、この経験を次回のポリナビにいかしていきたい。



青年部委員 仙台エコー医療療育センター 加藤 智治

今回宮城看護連盟青年部が正式に結成し3年が経ちます。今回のポリナビは、東北、北海道ポリナビを入れれば、4回目の企画、運営であった。テーマ「Nursuのおもい伝えよう！」でありました。良かったところは、各メンバーが仕事、プライベートが忙しい最中、準備、企画の話し合いを継続的に開き1人、1人意見を出し合いまとめていったのでよかった。また、職場の枠を越えてコミュニケーションをとり信頼関係を築きながら会議をしてきてよかった。本番では、役割分担をメンバーの得意分野を活かしながら関わり実行していったし、進行もほぼスムーズに進んでよかった。ファシリテーターの誘導もあり、自分自身では、各グループワークが活発におこなわれ最後のほうでは、参加者の心の緊張が解けたかのような雰囲気でポリナビが終わることができたと思う。

来年に向けての反省点としては、参加者が去年よりすくなかったので各職場にしっかり呼びかけたりポスターを貼ってもらうように依頼したりと強化すべきだし、看護協会にもお知らせして非会員にも伝えてもらうようにと努力が必要に思う。

あとは、ポリナビの概念を変えていきもっと政治や看護政策に興味持ってもらえるように企画し硬くならず参加できるようなイベントが行えるよう他の県でやっていることを学び、見学に行き宮城県らしさを出せるアットホームな催しができるよう青年部の一員としてがんばっていくので、応援よろしくお祈りします。

